

各委員から事前にいただいたご意見等について

※課題と感じられていることや、各団体での独自の取組の紹介などを寄せていただきました。

委員名	ご意見等
植山 委員	<p>【具体像④ 希望する人が家庭を築き、子どもを持つことができる】</p> <p>【具体像⑤ かけがえのない個性ある存在として、自己肯定感を持って育つことができる】</p> <p>家庭の貧困や保護者の養育放棄などを理由に施設などに入所している方々で一定の年齢以上の人にはスマートフォンかあるいは iPad の貸与とインターネットを使用できる環境を整備してあげることができたら良いと思います。</p> <p>携帯の所持がようやく認められ、携帯電話での通話とメール機能の使用のみが許可されている人が多いのが現状です。</p> <p>若い人たちの出会いと婚姻に至るまで手助けをするのにインターネットの環境は必需品になりつつあると思います。若い人たちが青春を謳歌し、恋愛を楽しみ、家庭を築くことへの興味と期待を育む下地作りが必要ではないでしょうか。</p>
大塚 委員	<p>子どもの預かり体制の充実</p> <p>【具体像④ 希望する人が家庭を築き、子どもを持つことができる】</p> <p>柔軟かつ気軽に助けてくれる存在（親族など）が近距離にいない女性にとって「働きながら、子育てをする・2人目3人目を育てる」ことは、困難が多いと感じています。</p> <p>同世代と話していると、近距離に援助者がいない核家族世帯・ひとり親世帯にとって、子どもの病気・休園・（特に、互いの休日が異なる夫婦の場合の）休日出勤は、働くこともしくは子どもを持つこと・2人目以降を生み育てることを断念する好材料になっていると感じます。</p> <p>現在私は「大分市子育てファミリーサポート」制度に登録しています。けれど、「保育園とファミリーサポートがあれば、出産前のように働ける」ということはありません。この制度は、「あらかじめ、援助会員さん（1名）と予定を調整し、援助会員さんの予定があれば依頼できる」ものであり、突然の病気や休園など、頻発する突発事態下での利用を想定したものではありません。</p> <p>「病児保育をはじめとする子どもの預かり・見守り体制」が充実し、誰にとっても手に届きやすいものになれば、仕事と育児の両立を選択しやすくなるのは勿論、よりよい教育環境を求める I ターン希望者が安心して移住して来れる大分県になるのではないかと考えます。</p>

委員名	ご意見等
堤 委員	<p>【具体像④ 希望する人が家庭を築き、子どもを持つことができる】</p> <p>保育園などの待機児童数が多いと言われているので、共働き家庭の人たちが二人目、三人目と安心して子どもを生もうという気持ちを持ちにくくなっていると思う。保育士不足や受け入れ施設の確保など早急に取り組み、改善してほしいと思う。</p> <p>【具体像⑤ かけがえのない個性ある存在として、自己肯定感を持って育つことができる】</p> <p>民生委員児童委員の活動として、赤ちゃん訪問活動や子育てサロン活動がある。それぞれの地域において子育て家庭とのつながりを持ち、日頃からの絆作りをしている。孤立しがちな親子によりそいながら、子どもたちの成長を見守っている。</p>
藤原 剛 委員	<p>対象となる世代以外の人意識改革</p> <p>【具体像④ 希望する人が家庭を築き、子どもを持つことができる】</p> <p>結婚や子育ての問題について、対象となる世代以外の人たちはどのように考えているのでしょうか？子育てが終わって関係ないと思っている人達、まだ自分の子どもは結婚、子育ては関係ない歳だと思っている人達も多いのではないのでしょうか？関係ないと思っている人達に「自分の子どもや孫が対象世代になった時に同じ問題に直面する」という意識をもってもらい、一緒に問題解決に取り組んでもらう必要があると思います。</p> <p>その為に、基本施策にある「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」の取り組みを早急に、かつ確実に行うことが必要と考えます。</p> <p>親の教育について</p> <p>【具体像⑤ かけがえのない個性ある存在として、自己肯定感を持って育つことができる】</p> <p>まずは親の勉強が必要と思います。現状では親として「子どもの自尊感情の醸成」についての勉強をする機会があまりありません。勉強会等の機会がもっとあればと思います。</p>
松田 委員	<p>【具体像④ 希望する人が家庭を築き、子どもを持つことができる】</p> <p>社会的養護下だった子供が家庭を築くには数多くの困難がある。</p>
渡部 委員	<p>結婚や出産へのマイナスイメージを取り除こう</p> <p>【具体像④ 希望する人が家庭を築き、子どもを持つことができる】</p> <p>本年度、こども子育て支援課の事業の一環として行われているライフデザイン講座に講師として呼んでいただき、大学生に自分のことを語る機会に恵まれました。</p>

委員名	ご意見等
渡部 委員	<p>結婚、出産を経て、働くことと向き合ってきたことを話す中で、「収入のよい仕事につかないと、結婚できない気がする」「自分もいつかはと思うけれど、子どもを産んで働き続けられるか自信が持てない」といった将来に不安を持つ学生がたくさんいることに驚きました。</p> <p>若い人で「子育てと仕事の両立は大変」とイメージする人は多く、まずは子どもを育てながら生き生き仕事をしている人がいることを知り、結婚や出産にプラスのイメージを持ってもらいたいと思いました。そして、急には難しいでしょうが、職場環境として長時間労働を是正すること、残業をしなくても収入が確保される賃金体系への転換が社会全体で進んでいくように望みます。</p> <p>失敗を乗り越える力を</p> <p>【具体像⑤ かけがえのない個性ある存在として、自己肯定感を持って育つことができる】</p> <p>「挫折に弱い子が増えている。自分はできるんだ、と自信がある様子なのに、一度の失敗に立ち直れない子どもが多いと感じます」。先日うかがった教育現場で聞いた声です。</p> <p>本当の自己肯定感は「失敗しても大丈夫」と、自分を信じていることができる力だと思います。周りの子どもたちを見ていると、失敗をSNSで揶揄されたことで友達を信じられなくなったり、人から指摘されるのが嫌だからと早々にあきらめることが多い印象を受けます。大変な場面を切り抜けることで生まれるその子ならではのしなやかさや強さを身に着けることが、自己肯定感につながります。忙しい時代、大人はつい答えを用意してしまいがちですが、周囲が辛抱強く見守ってあげられる環境も必要なのではと思います。</p>

めざす姿具体像	ご意見等をいただいた委員
①地域に支えられながら、安心して子育てをすることができる	
②必要なときに子育て支援サービスを利用することができる	
③親と子どもが十分に向き合うときを持ち、お互いに喜びを感じることができる	
④希望する人が家庭を築き、子どもを持つことができる	植山委員、大塚委員、堤委員、藤原剛委員、松田委員、渡部委員
⑤かけがえのない個性ある存在として、自己肯定感を持って育つことができる	植山委員、堤委員、藤原剛委員、渡部委員